



四十壇



七曲りの坂

四十壇の由来

《矢田野》

矢田野屋敷の東、磐女神社の山続きの東を四十壇と呼んでいる。四十の壇があったという。大きいのは八尺、小さいのは五尺あったといわれ、昭和初期の開墾などでほとんどその姿を消してしまつた。

四十壇の西の山には、いまでも、十数ケの壇があるので、ここ一帯は古墳群であつたろう。また、この道路を馬を引いて通ると、ポンポンと音がするのでポンポン山と呼ばれている。

(「白河風土記」より)

つしか七曲り坂と呼ぶようになった。
昔、源治郎右エ門という人の堀った清水があり、野良仕事の帰り道、この清水で一休みして水を飲んで、この坂を登つたといわれている。

今は東の方に大きな道路ができて、北向開墾に入る道も良くなつたので、この坂を通る人はほとんどいない。

(話者 井跡忠兵衛)